

埼玉親善大使 帰国レポート

国際教養大学 今池雄大

私はアメリカのカリフォルニア大学デービス校へ半年間留学しました。世界でも名門とされ人気の高いUCでの勉強はとても実生活に繋がるような授業で、とても楽しく、学びの深い時間でした。しかし、学問の学びよりもやはり現地で生活してみたことで学んだことが、留学での大きな成果に感じています。そこで、このレポートでは留学で得た3つのことをまとめたいと思います。

まず1つ目は、急速に進む円安から日本の未来について考え、将来の理想像ができました。

私の留学は2022年1月から6月までと、地政学的リスクによる資源価格高騰や世界的な利上げ局面という歴史的なタイミングでの留学でした。それらによる金利差拡大や需給のバランスの変化により、ドル円は115円あたりから139円あたりまでおよそ20%上昇することとなりました。ただでさえ、物価が高く日本よりも生活コストがかかるのにと大変悩ましい問題でした。しかし、このことは金融やお金への興味を掻き立てる機会になりました。

大学の授業では、アメリカの中央銀行の金融政策についての授業を履修し、金融の仕組みを学びました。その学びと株式投資や本、ニュースなどの知識を複合的に掛け合

わせ、円安の発生メカニズムについて深く考えました。結果として、日米の金利差によって、お金がよりお金を生み出すことのできる金利の高いほうへと流れていることや、資源高による輸入超過で日本円がドルにへ変えられるといった需給関係などといった原因がありますが、個人的には利上げをできないという点に危機感を覚えました。

理由は多くありますが、1つは経済界の新陳代謝が進まないということです。あくまで個人的な考えですが、国内では少子化が進み、日本市場はすでに天井が見えています。そんな中、世界で戦えるような企業を生み出していかねばならないのに、低金利政策で世界で戦えない弱い企業を守っていては、本来成長していくべき企業に渡すべきパイが残り続けることになり、足を引っ張ることになりかねません。これでは悲しいことに、日本の未来は暗く、慢性的な円安によって日本人が世界に出ていくことが難しくなってしまうのかなと感じました。

結果として、新卒の段階ではAmazonに就職し、世界を舞台に働こうという決断に至りました。将来的にはより給与の良いアメリカで働き、資産を運用することで大きな元手を作り、それを原資に、これから減ってしまうかもしれない日本から世界へ留学する学生を金銭的に支援することができるようになりたいという目標ができました。

2つ目に、「海外は危険」というバイアスについてです。

多くの方は、アメリカは日本より治安が悪いと考えると思います。実際、銃社会であつたり、社会保障が少ないがゆえにホームレスが多かつたりするため、そのような考えに繋がりやすいのではないかと思います。ましてや、報道では銃乱射事件や強盗などが取り上げられ、そのようなイメージに拍車をかけているのではないかと思います。

す。確かに、サンフランシスコの空港に降り立った時は、とにかく怖いと感じていて、すぐにでも日本にとんぼ返りしたいほどでした。

しかし、現地で生活してみて「アメリカ＝治安が悪い」や「アメリカ＝危ない」という考えは間違っているのかなと思いました。私が住んでいたデービスという町は学園都市で、田舎ということもあり非常に治安が良く、東京よりも安全と言い切れるくらいの町でした。また、都市部で治安が悪いとされるサンフランシスコにおいても、対策さえしておけば問題なく過ごすことができました。

このことから、色眼鏡で物事を見てしまっただけでは真実に気づくことができないと強く感じました。また、安全に対しても常に万が一を考えるようになり、あまり治安が良いとされていないところでは、ドアtoドアでタクシーを利用するなど、常に対策を取るようになりました。

最後に、何事も経験すること、異なる環境に身を置くことの大切さについてです。

大学の授業は英語のみ、オンラインではロシアに留学などと、国際的な学生生活を送っていたものの、やはり渡航して留学することには日本で得られないことが多くあることに気づかされました。例えば、異なる環境に身を置いたことで、スーパーでの買い物すら新鮮になり、斬新な視点で生活を考えることができたり、価値観が日本とは異なるため、そんな環境で生活することは日本での価値観について外から考えたり、自分自身が新しいものに適応していくなどの経験になりました。

この経験は、今後新しい世界へ踏み出す際のしきいを低くしてくれただけでなく、自分自身が見えている世界をより広げると同時に、柔軟な考え方をもたらしてくれました。

終わりに、上記3つのこと以外にも留学を通して自分自身が大きく成長することができたと感じる事が多くありました。今後も、日本国内で満足する事なく、グローバルな視点で生きていけるようにしたいと思います。また、このような経験を、埼玉県、そして日本の若い世代の人ができるよう支援ができるような大人を目指し、生きていきたいと考えます。